

はるかな尾瀬

—目次—

- 02 特集 尾瀬かたしなゼロカーボンパークの取り組み
- 04 特集 尾瀬における山岳遭難とその対応の現状
- 06 特集 笠ヶ岳登山道整備事業参加レポート
- 09 現地情報 番外編 ブログで振り返る令和5年度シーズン
- 11 令和5年度 尾瀬保護財団の主な活動
- 12 尾瀬自然解説ガイドからのメッセージ
- 13 尾瀬ボランティア総会開催レポート
- 14 尾瀬保護財団からのお知らせ



2024.3 vol.54
(公財)尾瀬保護財団

春編最優秀作品
「おぜ、すごーい！」@oyabacamera



夏編最優秀作品
「木道を 明るく魅せる 夏の花」@j.revo1013



秋編最優秀作品
「初秋の尾瀬ヶ原」@makimaki.93

尾瀬かたしな ゼロカーボンパークの 取り組み

尾瀬かたしなゼロカーボンパーク実行委員会 共同事務局

※執筆：片品村役場 むらづくり観光課 鍋木陽介

尾瀬国立公園（群馬県側）および 片品村におけるゼロカーボンパーク登録までの経緯

近年、地球温暖化により世界では異常気象や災害が起これり私たちの生活に大きな影響を与えています。

その要因は二酸化炭素などの、温室効果ガス排出量が増加したことによるとされています。

片品村では、尾瀬国立公園をはじめとした自然豊かな環境を将来に引き継ぎ、持続可能な社会を実現するため2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指し、ゼロカーボンシティ「片品村5つのゼロ宣言2050」を令和4年2月22日付けで表明いたしました

また、尾瀬国立公園は、『ゴミ持ち帰り運動』を始めとした自然保護の活動を地域が一带となって長年取り組んでいることから、日本の自然保護運動の原点とも呼ばれております。

これらの取り組みや地域として脱炭素化にも力を入れていることを評価していただき、尾瀬国立公園の群馬県側にあたる『尾瀬かたしなエリア』が、令和4年4月22日にゼロカーボンパークとして登録されました。

※群馬県内では初、全国でも7番目の登録。



Zero
Carbon
Park

ゼロカーボンパークとは

地域の皆さまや観光で訪れた皆さまと一緒に、

脱炭素化

脱プラ

食材の地産地消

エコツーリズム

など持続可能(サステナブル)な国立公園をめざしていくエリアのことです。

詳しくは
こちら→



尾瀬かたしなゼロカーボンパーク実行委員会の取り組み

ゼロカーボンパーク登録後、その実現に向け尾瀬国立公園群馬県側の土地所有者であり、管理者でもある東京電力グループ各社をはじめ、国や群馬県・村内外の民間事業者や関係団体などの多くの皆様方にご協力いただき、実行委員会を立ち上げました。

令和4年度は、組織づくり・計画づくりに力を入れ、令和5年度より、当委員会で作成したアクションプラン及び重点実施事項を達成すべく活動を開始いたしました。

【主なアクションプラン及び重点実施事項(2023年の主な取組)】



【尾瀬の日】を記念したゼロカーボンフォーラムの開催

実施主体／当実行委員会共同事務局
ゼロカーボンパークの実現に向けた普及活動



尾瀬国立公園内 鳩待峠～笠ヶ岳における登山道整備および講習会の実施

実施主体／環境省
植生復元による自然保護・登山道の整備



尾瀬国立公園群馬県側の玄関口にあたる鳩待峠にある鳩待山荘リニューアル

実施主体／東京パワーテクノロジー株式会社
省エネ・省CO²の実現 ※着工中。2025年オープン



道の駅へEV充電器の導入

実施主体／片品村
EV自動車の利用促進によるCO²排出量の減少

他にもこれからの取り組みとして、フードロス削減推進によるコンポスト(生ゴミの堆肥化)の活用や公共施設への再生エネルギー施設導入なども検討しております。

今後も脱炭素化へ向けた様々な取り組みを実施するとともに、片品村民のみならず、村外の関係する皆さまにも関わっていただけるようにしていきたいと考えておりますので、ゼロカーボンパークの実現に向け、ぜひご協力をよろしくお願い申し上げます。

●お知らせ

尾瀬かたしなゼロカーボンパークのSNSを開設いたしました。実行委員会の活動の様子や開催予定のイベント情報等を発信していく予定ですので、ぜひフォローをお願いいたします。

≫尾瀬かたしなゼロカーボンパーク(実行委員会)Instagram

https://www.instagram.com/oze_katashina.2022/

≫『ゼロカーボンフォーラム』動画はこちらどうぞ！

<https://youtu.be/lkjDj62TjaE>



Instagram



YouTube



ホバリングして救助する

尾瀬における山岳遭難と その対応の現状

尾瀬山の鼻ビジターセンター 令和5年度副所長 新保正利



群馬県防災ヘリコプター『はるな』



上空のヘリに手信号で指示する隊員

『今夏の山岳遭難、過去最多』（2023年9月13日朝日新聞）

こんな見出しで2023年夏山期間（7～8月）の山岳遭難統計が報道されました。7・8月のわずか2ヶ月間で738件の遭難事故が発生し、遭難者は809人、うち死者・行方不明者は61人（7.5%）、負傷者351人（43.4%）、無事救出者397人（49.1%）。これは、発生件数・遭難者数が過去最多という数値で、前年と比べると11%の増加でした。この数値を見たときに「尾瀬の救助事案や負傷者件数」の変化が気になるところです。

尾瀬国立公園内にはビジターセンター（以下VC）が二つあります。尾瀬ヶ原にある尾瀬山の鼻VCと尾瀬沼にある尾瀬沼VCです。2022年と2023年にVCで対応した傷病事故件数をみても、総件数は2022年、2023年ともに37件。うち、7月・8月の2ヶ月間に限ってみると、2022年は山の鼻VC8件、尾瀬沼VC3件でした。同じく2023年は、山の鼻VC7件、尾瀬沼VC3件でした。近年は、尾瀬地区に携帯電話会社の通信エリアが拡大されたことで、VCを介さない傷病事故も増加しています。



見本園にてホバリング中



防災ヘリを待つ傷病者



木道搬送用担架

も「みんなの尾瀬をみんなで守りみんなで楽しむ」+尾瀬が安心・安全と思ってもらえるよう対応していきたいと思います。

尾瀬は山岳地帯です。ぜひ、ハイカーの皆さんご自身も服装・装備など、自分で自分を守りご準備をし入山いただき、安全に尾瀬を楽しんでいただければと思います。

119番通報や110番通報が直接傷病者もしくは同行者から可能となったからです。

傷病内容は、毎年「木道で転倒によるケガ」が90%以上を占め、多くが応急処置を必要とします。傷病者の対応は、エリア外への自力下山、救助事案による搬送、防災ヘリコプター（県警ヘリ）による空路での医療機関への搬送、消防隊員・山岳警備隊員（警察）による徒手搬送、VC職員や山ノ鼻地区救助体制による救助部隊への引き渡しなど、多岐にわたります。

尾瀬山ノ鼻地区はヘリコプターの離発着地が確保できないことから、着陸が必要となるドクターヘリでの搬送はできません。群馬県防災ヘリコプター『はるな』を主軸として、各県の防災ヘリ、警察機関のヘリなど、ホバリングしながらピックアップ救助法による救出方法が主な空路救助搬送方法です。前職の消防署での職務経験と、山の鼻VCに3シーズン勤務した経験から、地上救助員とのランデブーポイント（※地上救助員とドクターヘリが合流する場所）の必要性を感じています。

VC＝救護所と考え、ケガや体調不良でVCを頼るハイカーが多いのも事実です。VC職員は、毎年救命講習を受講して入山しますが、VCでできるのは一次救命の中でも限られた応急処置です。また、山の鼻VCでは自主的に衛生用品の使用法や止血法・被覆・固定・搬送方法、三角巾や副木の作成要領などの職員研修を実施しています。そして、「知識・対応力をつけることは自己を守ること」を意識し、傷病者対応時の感染防止にも配慮しています。限られた設備・医療用品を最大限駆使しながら、少しでも



「笠ヶ岳登山道整備事業」 参加レポート

企画課 主任 宇野 翔太郎

2023(令和5)年10月16日(月)と19日(木)、尾瀬ガイド協会が環境省グリーンワーカー事業を活用して実施した「笠ヶ岳登山道整備事業」に参加しました。本項では、当日の様子をご紹介します。私たちが自然や山を楽しむ上で欠かせない「登山道」の整備についてご紹介したいと思います。

1 新しい登山道整備の考え方「近自然工法」

10月16日は、登山道関係者向けの座学と2022年整備区間の確認を行い、19日は、ガイドの方々と登山道整備を体験しました。講師は、全国各地で「近自然工法」による登山道整備や生態系保全(復元)を考えた山岳管理の普及に取り組んでいる、一般社団法人大雪山・山守隊の代表理事・岡崎哲三氏でした。岡崎氏の活躍はネットで拝見しており、私もいつか直接学んでみたいと思っていました。

今回のキーワードである「近自然工法」とは、「生態系の底辺が住める環境を復元できれば、おのずと生態系のピラミッドが出来上がる(大雪山・山守隊HP)」という発想で、自然界の構造を施工に取り入れ、生態系を復元させる方法ということです。従来の登山者の歩き易さを第一に考えた整備とは、根本的な考え方が異なります。

一方で、岡崎氏の講義で特に印象的だったのが「自然生態系の回復を考えれば、誰よりも登山者の歩き易い道を考える必要がある。」というお話でした。自然生態系の回復には、登山者に歩き易い道が必要ということですが、これは私たち登山者も登山道荒廃の(実は大きな)要因であるという事実を反映しています。登山道の生まれ方は様々ですが、基本的に登山道は、雪解け水や雨水、土壌の凍結といった自然的要因によって荒廃(土壌流出など)が進み、そこに登山者による踏圧などの人為的要因が加わることによってさらに荒廃が進んでいきます。なお、荒廃の原因には登山道の整備不足も挙げられ、また登山者が故意に荒廃させているわけではないため、登山者の利用が悪いという意味ではありません(写真)。

2 2022年度整備区間の確認

10月16日、昨年度整備された区間の確認も行いました。現場で見せていただいた昨年度の写真(泥濘、植物なし)から明らかに回復が見られました。僅か1年で植生が一定程度回復している様子を見て、参加者一同、思っていた以上



写真3. 倒木を活用した施工方法 (2022整備区間)



写真1. 歩き難い場所を避けることによる登山道の拡幅化



写真2. グレーチングを活用した歩道 (2022整備区間)

の成果が見られて驚いていました(写真2)。その他、倒木を活用した木道や泥濘対策などを確認しました(写真3)。

3 登山道整備体験

10月19日、近自然工法による登山道整備を体験しました。整備区間は、鳩待峠から至仏山に向かう途中にある「原見岩」と呼ばれるポイントの少し先、オヤマ沢田代の少し鳩待峠側です。

笠ヶ岳ではない場所を整備することにした理由は、登山道の状況を確認した時に、「この場所で水の流れを変えることができれば、ここより下部のガリー侵食を緩和できるかもしれない」ということで、この場所の整備が最優先とされました。登山道全体を見て、どこで何が起点で荒廃が発生しているのか、どこで何を改善したら登山道全体が良くなるのか、という広い視点で登山道を見ることが重要ということでした。

現地に到着すると、まずは周辺環境(植生等)を確認し、どういう環境なのか、利用できる資材(倒木、石など)はどんなものがあるのか確認します。その後、周辺環境から「どのような状態に自然生態系を回復させるか」ということをイメージし、そのために必要な登山道の形を検討します。また、実際に利用する登山者像をイメージし、その登山者にとって歩き易い登山道のイメージを共有していきます。今回イメージしたのは60代の登山者でした。このように具体的な利用者をイメージすると、「段差はどのくらいが望ましいか」「路面はどんな感じがよいか」といった具体的な整備イメージを持てるようになります。さらに、望ましい段差にするためには、「どの範囲を整備するか(起点と終点)」「そのために必要な資材量」などを確認することができました。

参加者で完成形を共有した後、グループに分かれ、チェンソーで適したサイズに切り出された倒木を運搬したり、木端を集めたり(写真4)、石・岩を集めたりしました。切り出された倒木で登山道の枠組を作り、空いた空間(段差)に木端や石・岩を詰めていくと、どんどん登山道が作られていきました(写真5・6)。

今回の作業人数は、22名程度で、尾瀬ガイド協会が事前準備をある程度してくれていましたが、当日の作業は3時間程度でした。完成した登山道を実際に歩くと、参加者の中にあつた「登山道整備は自分には出来ない」という不安が、「これなら自分にもできるかもしれない」という自信に変わっていったような気がしました。

今回参加したメンバーは、今後自分たちが整備したこの場所を気にしながら歩くようになると思います。登山道整備には、実際に道を良くするというだけでなく、整備した人たちに登山道やその山に愛着を持たせるきっかけになると感じました。ぜひ皆様も、至仏山登山の際には、近自然工法で整備されたこの区間をよく観察しながら歩いていただきたいと思います。

4 最後に

今回、笠ヶ岳登山道整備事業に参加したことで、短い時間ではありましたが、登山道整備にあつたの大切な考え方、登山道の見方などを学ぶことができました。また、登山道整備には幅広い視点・知識・経験が必要ということも分かり、まだまだ自分にとって登山道整備は遠い存在であることを再確認するとともに、より一層興味が湧きました。

登山道を守っていくためには、私たち登山者一人一人が、「知らないうちに登山道に負荷をかけていないか」「どうすれば登山道保全に貢献できるか」といったことを考えていくことも大切だと感じました。ぜひ皆様も、私たちが自然や山を楽しむ上で欠かせない「登山道」について、考えてみていただきたいと思います。



写真4. 大小様々な木端を敷き詰める



写真6. 作業後



写真5. 作業前

ブログで振り返る 令和5年度シーズン

○5月19日(釜ツ堀湿原の様子)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

まだ静かな尾瀬沼周辺ですが、きょうは釜ツ堀湿原の様子をお伝えします。釜ツ堀湿原ではミスバシヨウがどんどん増えてきています。純白が水辺に映えてとても綺麗です。



○5月24日(研究見本園の様子)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

研究見本園では、たくさんのお花が咲いています。ミズバシヨウが咲いています。



○6月2日(シカ柵設置作業を行いました)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

昨日、シカ柵設置作業を行いましたので、報告いたします。ニホンシカの食害からニッコウキスゲをはじめとする尾瀬の湿原植物を保護するため、大江湿原周囲にシカ柵を設置しています。大江湿原から尾瀬沼ビジターセンターへ歩いてい

くと木道に格子状の溝蓋(グレーチング)が設置されています。シカ柵

により、今年もニッコウキスゲがたくさん咲くことを願っています。

○6月6日(尾瀬ヶ原の様子)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

下ノ大堀川ビュースポットの様子です。ミスバシヨウの白い仏炎苞はほぼ見られなくなりまして。



○6月6日(燧ヶ岳の春)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

燧ヶ岳を尾瀬御池から登り、長英新道で下山した状況をお伝えします。尾瀬御池から登ると熊沢田代を過ぎたあたりから残雪が出てきま



す。力量にあつた装備を整えて、スリッパに十分ご注意ください。長英新道に残雪はありません。柴安島東面の登山道には残雪が張り付いています。滑り止めの装備等、対策をお願いいたします。

○6月9日(今日の大江湿原のお花)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

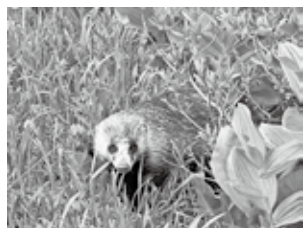
今日は、雨上がりの大江湿原のお花の様子をご紹介します。ちょうど雨が上がって間もない頃のサンカヨウを撮影できました。雨に濡れたからこそ見られる、半透明の花弁の姿です。これから数日間、通り過ぎるハイカーの方々を楽しませてくれるでしょう。



○6月17日(アナグマと遭遇)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

昨日、ポランティヤハウス(通常ポラハウスと呼んでいます)の設置に立ち会うために沼山峠登山口に向かっている途中、大江湿原でアナグマに遭遇しました。しきりと地面を



ついでに、1分間ぐらいの動画も撮影することができました。尾瀬には34種の哺乳類が生息していると言われていますが、なかなか会えないので会えるのが嬉しいです。

○6月20日(遅霜が〜)

〜尾瀬沼ビジターセンターより〜

気温-9度、今朝の尾瀬沼は朝霧がたちこめ、毛糸の帽子をかぶらないと耳が痛くなるほどの寒さでした。大江湿原や木道も霜ですっかり覆われました。湿原が朝日をあびて真っ白に輝いていました。とても美しいのですが、霜が植物に及ぼす影響がとても心配な今日この頃です。



○7月1日(至仏山開山のお知らせ)

〜山の鼻ビジターセンターより〜

至仏山(標高2,228m)の東面登山道を汗かきながら登ったご褒美に、振り向くとこんな素晴らしい景色に出会えるかもしれませぬ。東面



登山道は植生保護と蛇紋岩が滑りやすいので転倒防止のため、登り専用となっております。下ることができないため、東面登山道を登られた方は小至仏山経由で鳩待峠へ下山となります。

○7月2日(研究見本園一時閉鎖について)

山の鼻ビジターセンターより

ツキノワグマによるミズバショウの実の採食が活発になってきました。特に、山ノ鼻地区の研究見本園内はツキノワグマが集中する場所ですので、入山者の皆さんの安全を第一として研究見本園を一時閉鎖することとなりました。ご理解とご協力をお願いすると共にクマ鈴の携帯や、声を出すなど安全対策をお願いいたします。

○7月3日(尾瀬ヶ原の様子)

山の鼻ビジターセンターより

逆さ燧ヒュースポットと東電下の大堀川橋付近でニッコウキスゲが咲き始めました。



○7月31日(特定外来生物との戦い)

尾瀬沼ビジターセンターより

小沢平登山口、特定外来生物であるオオハンゴンソウは根を深く張り、根を残すと翌年再生してしまうので、根こそぎ

駆除しなくてはなりません。根気のある作業です。最後は軽トラックの荷台にいったいになるほど集まりました。



○8月6日(尾瀬沼北岸の景色)

尾瀬沼ビジターセンターより

今日は、ビジターセンターから尾瀬沼北岸を歩いて沼尻までの景色を紹介したいと思います。大江湿原に出たところで、カルガモの家族が



大江川を泳いでいました。ビジターセンターから歩いて1時間弱でしょうか、沼尻に着きます。沼尻には、無人ですが休憩所がありトイレもありますので、ぜひ休憩して、ここからの景色を堪能していただきたいです。

○8月26日(沼尻と沼尻公衆トイレ)

尾瀬沼ビジターセンターより

今日の沼尻は、太陽に照らされて輝いていました。沼尻に来たら、是非この池塘のまわりも歩いていただきたいです。沼尻公衆トイレは、今月5日から利用できるようになりました。公衆トイレを維

持管理するために多額の費用がかかります。ぜひ皆様のご協力をお願いします。



○9月8日(秋の装い)

尾瀬沼ビジターセンターより

風雨が少し強いきょうの尾瀬沼です。そのため訪れる人も少なく静かで、大江湿原も雨に濡れてしっとりとしています。



今日は、すっかり秋の装いになった大江湿原の様子をお伝えします。アブラガヤ、赤茶色になって湿原の草紅葉に一役買っています。三本カラマツ付近も草紅葉がだいぶ進んできました。尾瀬沼周辺は日一日と秋が深まってきています。

○9月19日(尾瀬ヶ原の実りの秋)

山の鼻ビジターセンターより

花は少なくなりましたが、実りの秋を迎え、赤・緑・青など色とりどりの実を各所で結んでいます。



○10月19日(紅葉の登山道 鳩待峠山の鼻の様子)

山の鼻ビジターセンターより

鳩待峠から登山道を下ると、木々の葉が鮮やかに色づいています。赤や黄色、緑のグラデーションが登山道を彩ります。



○10月22日(尾瀬沼銀世界)

尾瀬沼ビジターセンターより

今朝の大江湿原の様子です。夜中に降り続いた雪で、一面銀世界となりました。積雪量は数cmほどでしたが、昨日とはまったく違う圧巻の景色です。雪の中に、うっすら黄葉した三本カラマツが浮かび上がります。ほとんど誰も歩いていない雪の積もった木道を歩くのは、気持ちいい反面、転倒するかもしれないという不安もあります。ストック等で先を確かめながら、確実に歩きましょう。



令和5年度尾瀬保護財団の主な活動

4月	14日 22・23日	至仏山残雪期調査実施 春の上州どっと楽市出展（ピエント高崎）
5月	8日 13日 13日 14日 16日 17・18日 24日	尾瀬ガイド協会理事会に出席（web） 尾瀬沼ビジターセンター開所 尾瀬Instagram投稿キャンペーン募集開始（～10月31日まで） 山の鼻ビジターセンター・研究見本園でツキノワグマ対策研修を開催 尾瀬山の鼻ビジターセンター開所 研究見本園植生保護柵設置ボランティア活動実施 外来植物（ハルザキヤマガラシ）駆除作業実施（津奈木・鳩待峠間）
6月	1日 8日 14日 14・15日 19日 23日 24・25日 29日	林野庁による大江湿原防鹿柵設置作業に参加 インスタグラム（英語版）開設 尾瀬保護財団第42回理事会（定時・群馬県庁/web） 福島県尾瀬地区植生復元調査実施 群馬県によるオヤマ沢田代植生保護柵設置作業に参加 至仏山東面登山道整備（柵立て）実施 尾瀬自然解説ガイド養成研修開催 尾瀬保護財団第20回評議員会（定時・ぐんま男女共同参画センター/web）
7月	7日 8日 10日 22日 22・23日 25日 28・29日	インスタグラム（通常版）フォロワー5千人達成 尾瀬ボランティア講座開催（座学・群馬県庁/web） ツキノワグマ対策協議会によるテンマ沢湿原の刈り払い作業参加 尾瀬ボランティア講座（実地/山ノ鼻） 福島県尾瀬地区植生復元調査実施 2023（令和5）年度第1回尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会に出席（web） 外来植物（オオハンゴンソウ）駆除作業実施（小沢平）
8月	21・22日	福島県尾瀬保護調査会調査補助
9月	7日 9～11日 12日 13日 14日 29日	山小屋との意見交換会（尾瀬沼地区） インタープリテーション研修実施（山ノ鼻） ツキノワグマ生息状況等に係るミズナラ豊凶調査実施 山小屋との意見交換会（見晴地区） 山小屋との意見交換会（山ノ鼻地区） 外来植物（オオハンゴンソウ）繁茂状況調査（小沢平）
10月	1日 3日 8日 11・12日 13日 14日 20日 21日 31日 31日	山の鼻ビジターセンター開設30周年記念トークショー開催（山ノ鼻） 群馬県によるオヤマ沢田代植生保護柵撤去に参加 ありがとう尾瀬清掃活動実施 ツキノワグマ生息状況等に係るブナ豊凶調査実施 研究見本園植生保護柵格納ボランティア活動実施 ありがとう尾瀬清掃活動実施 至仏山東面登山道整備（柵倒し）実施 林野庁による大江湿原防鹿柵撤去ボランティア活動の支援実施 尾瀬山の鼻ビジターセンター閉所 尾瀬沼ビジターセンター閉所
11月	8～12日 21・22日	ぐんまフェア出展（イオンモール太田）※8～10日にワークショップ開催 令和5年度第1回冬期調査実施
12月	9日 12日 21日 22日	ぐんま環境フェスティバル出展（群馬県庁） 尾瀬ガイド協会理事会に出席（web） 尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会に出席（web） 令和5年度南会津尾瀬ホンジカ対策協議会情報交換会に出席
1月	24日	2023（令和5）年度第2回尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会に出席（web）
2月	3日 3日	自然解説ガイド連絡会議開催（大宮市・ソニックシティ） 尾瀬ボランティア総会開催（大宮市・ソニックシティ）
3月	4日 12日 13日 15日	尾瀬国立公園協議会に出席 尾瀬国立公園ツキノワグマ対策協議会開催 至仏山保全対策会議開催（web） 尾瀬保護財団第43回理事会（定時・群馬県庁/web）

Hello

尾瀬自然解説ガイドからのメッセージ

◇ 尾瀬保護財団では、尾瀬の貴重な自然に触れ、自然や保護の取組への理解を深めていただくための尾瀬自然解説ガイド事業を実施しています。その案内を担当する尾瀬自然解説ガイドからメッセージが届きました。尾瀬にお越しの際は、ぜひ尾瀬自然解説ガイドをご活用ください！

また、尾瀬ボランティア対象の養成研修も実施予定です。意欲のある方々の参加をお待ちしております！

..... 尾瀬自然解説ガイドを活用されるみなさまへ



斉藤敦 さん

尾瀬戸倉に住み、年間60日ほど尾瀬のガイドをして5年になります。こんな有意義な人生を送れるのも尾瀬ボランティア、尾瀬自然解説ガイドに参加して、尾瀬に係る多くの友人を得られたお陰だと思っています。尾瀬自然解説ガイドは、尾瀬をもっと知りたいという方に非常にお手軽な手段です。是非ご利用下さい。

尾瀬入山の目的は？雄大な景色・草花の美しさ・美味しい空気などのイメージだと思いますが、その背景の、より興味を駆り立てる奥深い要因を探り、自身の日常生活と自然との関連付けにより生活の幅や視野を広げましょう！



栗原洋三 さん

週ごとに変化を見せる豊かな自然に恵まれた尾瀬。みなさまの五感をフル活用できるようなお手伝いをしたいと思っています。みなさまと自然のパワーを分かち合えることを楽しみにしています。尾瀬を渡る風を全身で感じましょう！



山田慶子 さん

Happy!

..... 尾瀬自然解説ガイドを目指す尾瀬ボランティアへ



栗原洋三 さん

一般ボランティアから尾瀬自然解説ガイドへ！時間・体力・費用を使って得た尾瀬の諸々の知識・体験を入山者にお裾分けし、尾瀬ファンを拡大しよう！充実感のある楽しい活動です！



山田慶子 さん

尾瀬の知識は先人にはかないませんが、尾瀬を愛する心は永遠です！遠方在住で年間入山回数は多くありませんが、その中でも多くの方々との出会いを楽しんでいます。尾瀬に心を寄せている皆さん！ガイドとして尾瀬愛をシェアしませんか？



飯野茂男 さん

尾瀬の貴重な自然を安全に楽しく体験して頂き、自然保護の必要性も説明します。事前に入山回数や内容の希望が分かるので、質の高いガイドが可能です。少人数で、説明時間も長く、ボランティア活動や自然を守る取組など、尾瀬への関心度を高めることができます。質問も沢山あり、和やかな雰囲気、ガイド自身も楽しみながらご案内できます。

Enjoy!

本州最大の湿原「尾瀬」。この地に思いを巡らす人々は、期待を心に忍ばせてやって来ます。自然の佇まいに感動し、歴史や成り立ちに驚嘆、そして多くの発見を得てやがては次世代への思いも募らせて…。ホスピタリティに富んで丁寧な、かつ豊かな情報を備えた、そんな案内役にあなたも身を投じてみませんか。



狩野哲子 さん

自然解説ガイドになって10年以上が経ちました。大切にしていることは自分自身が尾瀬を楽しむこと。自然解説ガイドを通じて、尾瀬のファンになってくれたお客さまとの交流はいまでも続いています。尾瀬ボランティアの皆さん、自然解説ガイドをめぐらして一緒に活動してみませんか。ぜひお待ちしております！



小暮義隆 さん

Star icons

尾瀬ボランティア総会開催レポート

2月3日(土)に、第27回尾瀬ボランティア総会を大宮のソニックシティビルで開催しました。全国各地から34名の尾瀬ボランティアが参加し、令和5年度シーズンの尾瀬の様子や、尾瀬での体験談などをシェアし、交流を深めることができました。

総会の内容

- 令和5年度 活動実績報告
- 令和6年度 活動計画(案)
- ゼロカーボンパークの概要
- 班別討議



第27回尾瀬ボランティア総会参加者集合写真

班別討議では、「尾瀬の魅力とPR方法」と「外国人入山者の受入環境」の2つのテーマについて討議しました。その中で出た意見の一部を紹介します。

テーマ① 尾瀬の魅力とPR方法

《尾瀬の魅力》

- 花が好きなら、ミズバショウが終わった梅雨の時期がおすすめ。
- 蛍、星空、白虹、夕暮れ、月夜に照らされた尾瀬ヶ原、朝霧など、宿泊するからこそ見ることができる尾瀬。
- マイナルートの木道で寝転がって過ごす時間が好き。

《PR方法》

- まずは一度尾瀬に来てもらってリピーターを増やす。尾瀬ボランティアが季節ごとの魅力をPR。
- 初心者向け、リピーター向け、熟達者向けなど、レベル別のルートを紹介。
- 学校教育にSDGsの観点から尾瀬を取り込む。
- 尾瀬ボランティアの立場で安全と自然保護の取組をPR。



班別討議の様子

テーマ② 尾瀬の魅力とPR方法

《困った経験》

- 外国語で花の名前が分からず困った。
- 尾瀬ボランティア活動でも言語の必要性を感じた。

《尾瀬ボランティアとしての対策》

- 禁止事項のみを啓発しがちだが、心構えひとつで対応が変わる。ルール・マナーは理由が分かるように啓発する。
- 英語だけでなく、多言語での啓発が必要。
- 通訳アプリの活用。
- 片言でも対応できるよう、自己研鑽は必要。

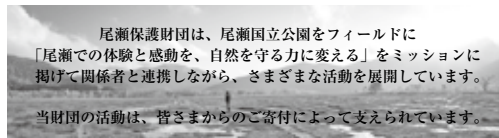


班別討議の様子

尾瀬ボランティア総会にご参加いただいたみなさま、活発に討議していただきありがとうございました。来シーズンも、みなさまの積極的な活動を期待しております！

寄付のお願い

美しい尾瀬を未来に引き継ぐために皆さまからのご支援をお願いします



■所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について

尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。詳しくは、当財団ホームページをご確認ください。

※所得税・法人税の詳細については最寄りの税務署に、県民税・市町村民税については、お住まいの都道府県・市町村にお問い合わせください。

■特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

■寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、ご連絡の上、以下の口座にお振込をお願いします。

福島県	群馬県	新潟県
東邦銀行県庁支店 普通 1078095	群馬銀行県庁支店 普通 0515428	第四北越銀行県庁支店 普通 1182791

※振込手数料は寄付者のご負担となります。何卒ご了承ください。 ※以下の口座を廃止いたしました。お振込の際には十分ご注意ください。

大東銀行福島支店口座 / 福島銀行本店営業部口座 / 東和銀行本店営業部口座 / 第四北越銀行(旧北越銀行)新潟県庁支店口座 / 大光銀行新潟支店口座

■注意事項 ご寄付の受領後、領収書等を作成・送付させていただきます。

ご住所及びご芳名が不明な場合、必要書類をお届けすることができません。必ず財団事務局へご一報ください。

■お問い合わせ先 公益財団法人尾瀬保護財団事務局(寄付担当) TEL:027-220-4431 Mail:info@oze-fnd.or.jp

佐田建設株式会社様からご寄付をいただきました。

当財団の「協賛寄付者」である「佐田建設株式会社」様からご寄付を賜りましたことを受け、2024〔令和6〕年2月8日(木)、群馬県庁16階環境森林部会議室にて寄付受納式を実施し「感謝状」を贈呈させていただきました。式典には、佐田建設株式会社から 土屋三幸 代表取締役社長様にご出席を賜り、当財団の 須田恵理子 常務理事が対応させていただきました。

冒頭のご挨拶のなかで、土屋社長様からは「東証スタンダード市場に上場する企業として、社会的責任をしっかりと果たしたい」「自然保護という観点で(自治体とともに)サステナブルな応援を民間(企業)が担いたい」という主旨のお言葉を賜り、大変嬉しく、心強く、また、頭の下がる思いです。

登山がご趣味という土屋社長様からは、ご自身の初の山行(中学3年生)が尾瀬であったこと、それから半世紀を経て、令和4年10月に燧ヶ岳に登られた際に感じた想いについてもお伺いし、当財団常務理事との会話も弾んで、とても有意義な意見交換の場となりました。

改めまして、このたびのあたたかいご支援に感謝申し上げますとともに、今度とも未永いお付き合いをさせていただければ幸いです。



記念撮影

(向かって左側が 佐田建設 土屋社長様、右側が 当財団 須田 常務理事)

佐田建設株式会社様のご紹介 ●所在地(本社):〒371-0846 群馬県前橋市元総社町1-1-7
●代表者:代表取締役社長 土屋 三幸 (敬称略)
●URL:<https://www.sata.co.jp/>

佐田建設株式会社様は、1920〔大正9〕年創業。群馬県前橋市に本社を置くゼネコン(総合建設業)で、建築及び土木事業を展開しています。県内唯一の上場総合建設会社であり、官公庁・民間を問わず、幅広く工事を受注して全国各地の建築物を建設するとともに、「高速道路」「橋梁」「トンネル」「ダム」「災害復旧工事」などを手掛け、人々の記憶に残るシンボルを施工しています。同社は今年で創業104年目を迎え、新たな100年後の未来に向けて「満足」を越えて「感動」をお届けする企業＝『今まで以上に地域社会の発展に貢献できる企業』を目指しています。

特別協賛寄付者のご紹介

※2月29日現在、五十音順、敬称略

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
通算寄付額 5,396,790円

糸井商事

糸井ホールディングス

糸井商事株式会社 通算寄付額 9,600,000円

心の産業グループ
エコ計画 私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています
環境・食・貢献をテーマに!

株式会社エコ計画 通算寄付額 8,000,000円

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU

関東いすゞ自動車株式会社 通算寄付額 900,000円

群馬トヨペット

群馬トヨペット株式会社
通算寄付額 2,107,140円

株式会社ジーシー

株式会社ジーシー 通算寄付額 900,000円

一生涯のパートナー

第一生命



Dai-ichi Life Group

第一生命保険株式会社 群馬支社
通算寄付額 2,732,900円

Asset Management One
アセットマネジメントOne 株式会社
通算寄付額 42,840,390円
投資の力で未来をはぐくむ

尾瀬紀行
尾瀬紀行（信託ファンド）で收受した信託報酬の一部をご寄付いただいております。平成19年より今回が17回目のご寄付となります。
通算寄付総額 85,680,779円

群馬銀行 株式会社群馬銀行
通算寄付額 38,987,075円※
私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつぎます
（※）尾瀬紀行（ぐんざん証券様分）、横断幕寄付、ぐんざんSDGs私募債、株主優待制度「寄付コース」、その他財団設立当初の一般寄付を含む。

第四北越銀行
DAISHI HOKUETSU BANK
株式会社第四北越銀行
通算寄付額 7,249,361円

第四北越証券
Daishi Hokuetsu Securities
第四北越証券株式会社 通算寄付額 1,978,893円

すべてを地域のために
東邦銀行
株式会社東邦銀行 通算寄付額 15,596,960円※
※尾瀬紀行（とうほう証券様分）を含む。

協賛寄付者のご紹介

※2月29日現在、五十音順、敬称略

仲間が広がる。夢が輝く
クラブツーリズム株式会社
通算寄付額 1,750,000円
クラブツーリズム

一般財団法人群馬県警察厚生会
通算寄付額 1,300,000円

群馬県ビルメンテナンス協同組合
通算寄付額 2,300,000円

GN群馬日産自動車株式会社
群馬日産自動車株式会社 通算寄付額 1,200,000円

KDDI株式会社
通算寄付額 656,700円

佐田建設株式会社
SATA 佐田建設株式会社 通算寄付額 600,000円

Smile Park
SMARK ISESAKI
スマーク伊勢崎
通算寄付額 1,750,000円

利根郡信用金庫
利根郡信用金庫 通算寄付額 4,045,390円

このまちの笑顔をつやそう。
とりせん
株式会社とりせん
通算寄付額 2,978,562円

NICHINEN
株式会社ニチネン 通算寄付額 1,700,000円

パティスリークリエーション
ガトーフェスタハラダ
株式会社原田 通算寄付額 300,000円

ひかり接骨院
通算寄付額 793,000円

その他の寄付者のご紹介

※令和5年11月1日～令和6年2月15日までの寄付者、五十音順、敬称略

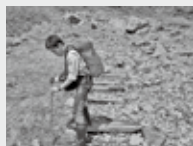
伊藤秀男、上原純一、関越交通株式会社、佐藤和孝、柴田慶子、SOMPOちきゅう倶楽部(SOMPOグループ会社役員有志)、中村浩孝、株式会社ナカヨ、横尾有希子、横山千穂

皆さまからのご寄付の用途について（尾瀬保護財団の主な活動）

皆さまからのご寄付は、旅行会社や登山者への普及啓発活動、ビジターセンターでの自然解説活動、公衆トイレや木道の維持管理、至仏山の環境保全対策、ニホンジカ対策、ツキノワグマとの共生、外来植物対策など、幅広い事業に役立てられます。



入山口啓発活動



至仏山登山道柵立て作業



シカ柵（ニホンジカ侵入防止柵）設置作業



自然解説活動（自然観察会）



木道の栈木打ち作業



特定外来植物（オオハングンソウ）駆除作業

表紙の風景



【春編最優秀作品】

投稿者: oyabacamera
タイトル: おぜ、すごーい!

コメント: 「ミズバショウが見ごろの尾瀬」「子どもを背負っての親子尾瀬ハイキング」という2つの念願が叶った日の記念の1枚です。ベンチに親子3人で座り、一面のミズバショウと残雪の至仏山を眺めながら過ごした離乳食タイムは忘れられません。息子が1歳なりに尾瀬を楽しんでいたようです。



【夏編最優秀作品】

投稿者: j.revo1013
タイトル: 木道を 明るく魅せる 夏の花

コメント: 私の中で、『夏の尾瀬といえば』のイメージを写真にしてみました。水芭蕉も素敵ですが、ニッコウキスゲの方が少し目立ちたがり屋



【秋編最優秀作品】

投稿者: makimaki.93
タイトル: 初秋の尾瀬ヶ原

コメント: 朝がすみと黄金色に輝く尾瀬ヶ原がとても美しくて何度も足を止めてしまいました。

2024年もInstagram投稿キャンペーンを実施します!

尾瀬Instagram投稿キャンペーン(#尾瀬フォト2023)に投稿いただいたみなさま、ありがとうございました! 2024シーズンもキャンペーンを実施予定です。あなただけの特別な尾瀬の写真を投稿してください! 素敵な一枚をお待ちしております!

STEP 1▶ 尾瀬保護財団公式Instagramアカウント(@discoveroze)をフォロー

STEP 2▶ 尾瀬国立公園内で写真を撮影

STEP 3▶ 指定#(ハッシュタグ)をつけて投稿

詳細は当財団HP、公式SNS上でお知らせしますので、お楽しみに!

友の会コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

※加入・更新時期は年4回(5月・8月・11月・2月)です。

※8月1日からの加入・更新をご希望の方は6月28日までに会費の納入をお願いします。

《年会費》

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口 1,500円
	賛助会員 (企業・団体等)	1口 10,000円
	特別会員 (企業等)	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。

- 友の会会員バッジ進呈(初回加入時のみ)、各種資料送付
- 財団機関誌: 郵送にてお配りします
- 宿泊割引: 尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- 尾瀬周辺施設利用料割引: 入浴料割引
対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。
<https://oze-fnd.or.jp/ozg/fc/>

【編集後記】先日、移動尾瀬自然教室に同行しました。小学四年生の子どもたち。私が尾瀬を知ったのも、その頃でした。今私がこの仕事に就いているのも、初めて家族で訪れた尾瀬が記憶に残っていて、いつか働きたいと思ったからでした。この子どもたちの目には、今の尾瀬はどう映るのだろう。あの私の記憶に残った尾瀬と同じ尾瀬なのか。私が尾瀬と出会ってから30年、尾瀬を取り巻く状況は大きく変わりました。30年後の子どもたちにも、私の好きな尾瀬を残せるかどうかは、“今”の積み重ねなのだ改めて感じています。(佐々木)



OZE Mobile
スマートフォンサイト

- 緊急情報
- お知らせ
- ライブ映像 など

(旧Twitter)

尾瀬情報配信中
尾瀬の情報を随時発信します



@oze_info

尾瀬保護財団note

尾瀬に関するさまざまな
記事を投稿します

